

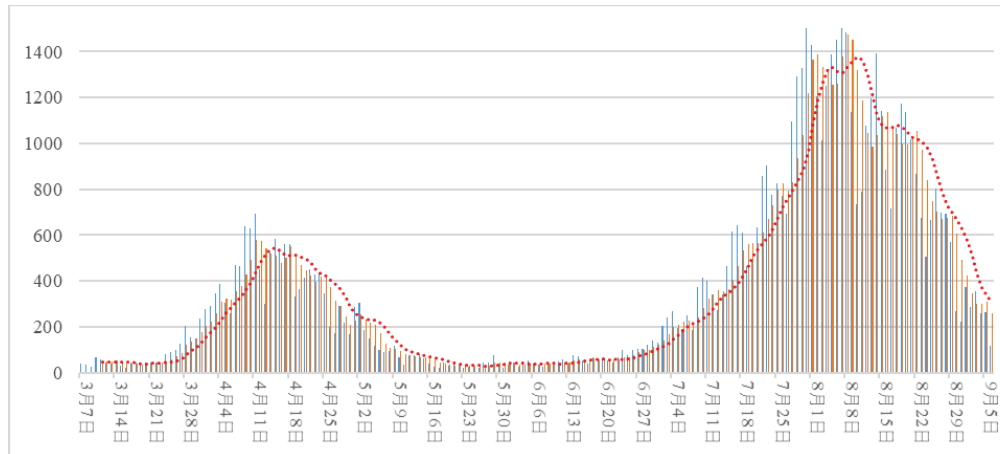
新型コロナウイルス感染症  
流行シミュレーション作成事業  
結果（2020年9月8日版）

群馬大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野

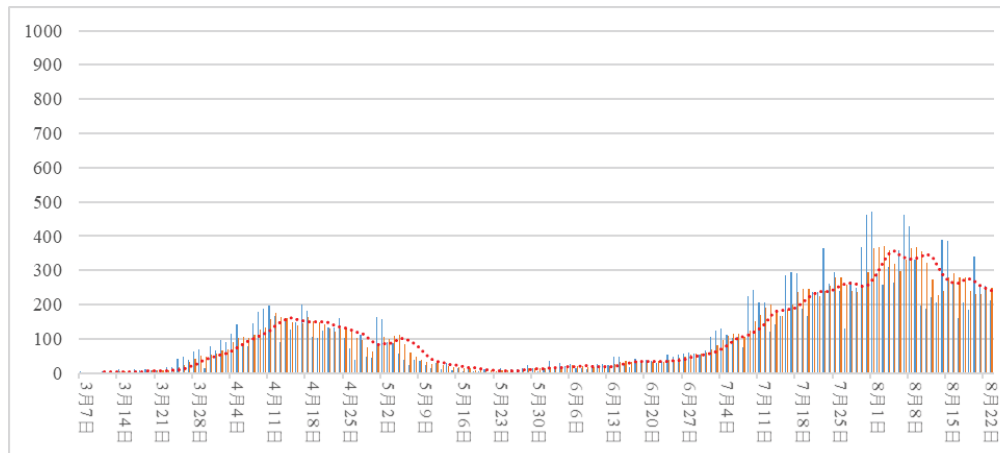
# I 流行のリアルタイム評価

- 全国と東京では8月前半に2回目のピークを認めただが、それ以降は減少し続けている。

全国



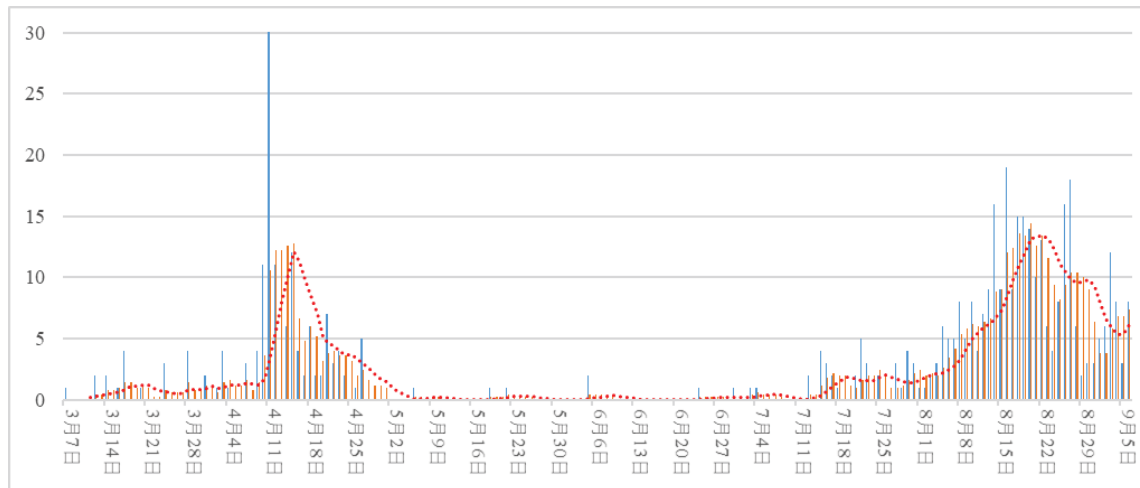
東京



青：報告者数  
橙：移動平均（5日）  
破線：橙の近似曲線

# I 流行のリアルタイム評価

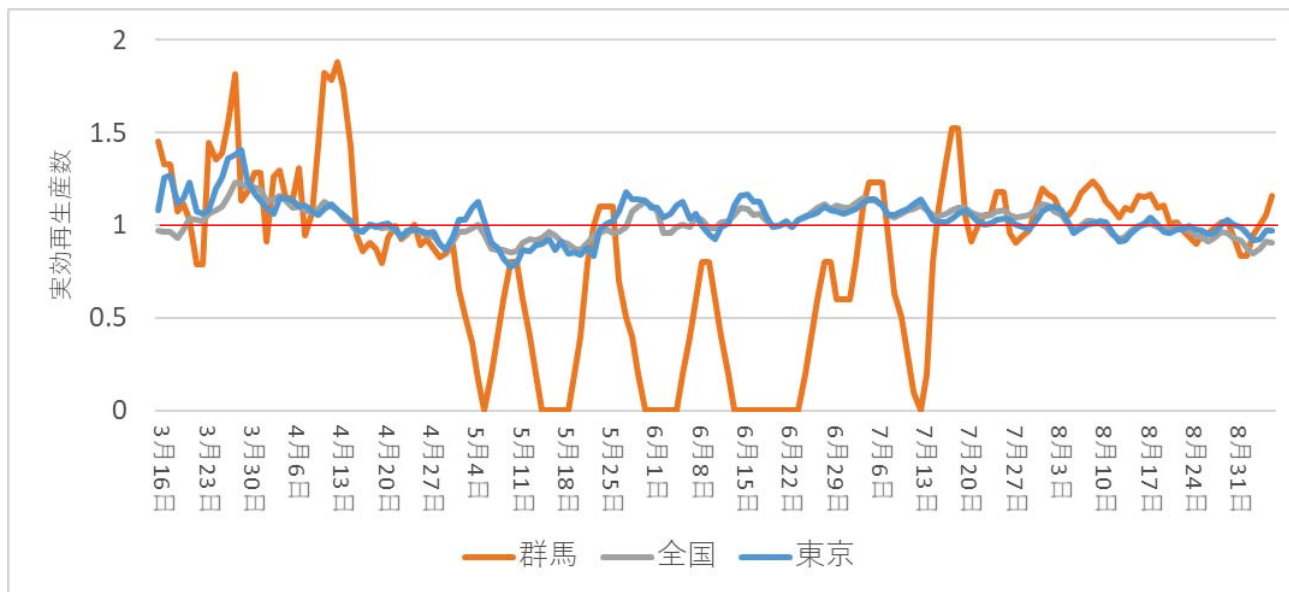
- 群馬県では8月中旬に2回目のピークを認めた。
- 全国や東京と同じく、全体的には減少傾向を示しているが、小幅な増減も認めた。



青：報告者数  
橙：移動平均（5日）  
破線：橙の近似曲線

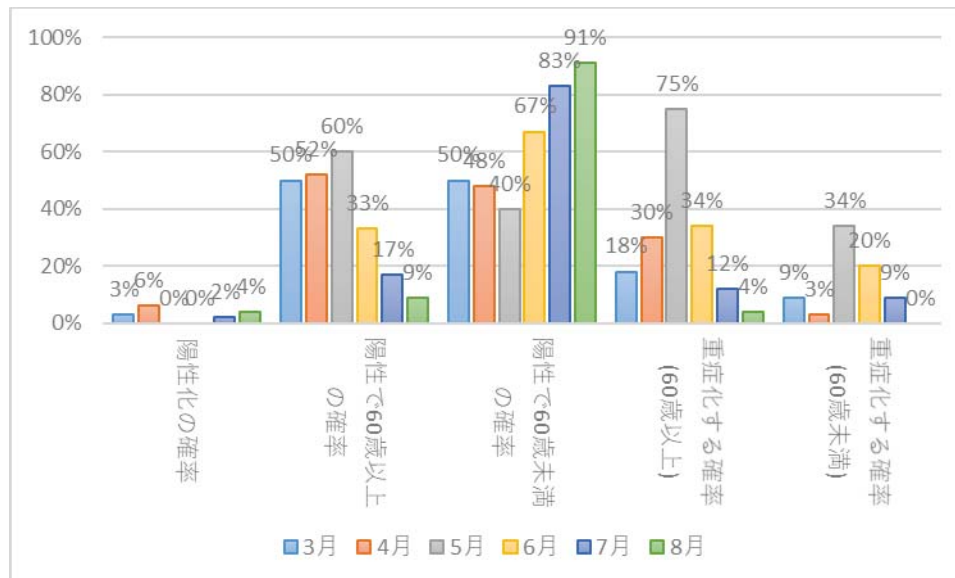
# I 流行のリアルタイム評価

- 全国は8月後半から，東京は9月から実効再生産数の推定値が1を下回っている（最新値：全国0.91，東京0.97）。
- 群馬県は，8月後半の断続的な報告が影響し，推定値は1付近を上下している。最新値は1.16。



## Ⅱ PCR検査結果予測

- 月別のPCR検査件数からどのくらいの確率で陽性者が出るかベイズ推定した(Rstanを使用)。
- 陽性者が60歳未満である確率は5月以降増加し続けており，8月は90%を超えた。
- 陽性者が重症化する確率は，5月のピーク以降減少し続け，8月は0~4%だった。



# まとめ

- 全国的にPCR陽性者等の報告数は減少傾向にあるが、群馬県は不安定な増減を示した。
- 群馬県では現在も断続的に陽性者が報告されている。その内訳をみると、家庭内感染が疑われるケースが増加していた。家庭における体調不良者への対応方法を周知することが必要である。
- PCR検査結果を月別に計算しなおした結果、陽性者の年齢は低下し、重症化する確率も低下していた。若者の陽性者の報告が増えていることより重症化リスクが低下したと考えられる。
- 引き続き、高齢者施設や若者の集団だけでなく、家庭内の感染対策を継続することが必要である。